

1stクラス競技規定

一般

- ・フライトはすべて選手個人の責任において行うこと。
- ・フライトは使用機材の運用限界内で行うこと。
- ・参加選手は、安全なヘルメット、120 日以内にリパックしたレスキューパラシュート、ハーネスからのパイロット脱落防止装置を装備しなければならない。
- ・使用機体は期間中変更できない。但し破損した場合には競技委員長の許可を得て変更できる。
- ・選手は心身ともに競技できる健全な状態でなければ競技してはならない。
- ・フライトに支障をきたす薬物やアルコールを摂取してのフライトをしてはならない。
- ・競技委員長に安全なフライトは無理と判断された場合、フライトを制限されることがある。
- ・電線、建造物、人ごみ等の上空は 50m 以上の高度を保って飛行すること。
- ・水以外のいかなる物品も投下してはならない。
- ・航空法を厳守すること。
- ・雲中飛行は禁止する。
- ・雲中飛行とは、グライダーの一部又はパイロットが雲により、第三者からの視界から消えたときのことを言う。
- ・多くの選手が雲中飛行をした場合、競技委員長は競技を中止する場合がある。
- ・サーマルに既に旋回中のフライヤーと同方向に旋回するように入ること。ただし、エリアによっては日にちによって旋回方向が決まっているのでエリアルールに従うこと。
- ・参加選手はフライトをしたか、しないかにかかわらず毎日安全確認の報告を決められた時間までに行うこと。
- ・大会規則に違反した選手あるいは役員の指示に従わない選手は警告を与える。警告を与えられた者は何らかのペナルティーを与えられる。二回以上警告を受けた選手は大会失格とする。
- ・重大な危険行為をした選手及び不正を働いた選手はその時点で大会失格とする。
- ・他人に迷惑をかける行為を行った選手は、大会失格とする場合がある。
- ・GPS のマップデイトムは WGS84、位置表示フォーマットは hddd.mm.ss.s に設定しておくこと

年間ポイント

・ポイント獲得:各大会の最終獲得点数のうち、1 位の選手の獲得点数を 1000 ポイントに換算し、その比率で各選手の獲得点数を換算した点数を獲得ポイントとする(獲得ポイント=P2/P1×1000 P1:1 位の獲得点数 P2:本人の獲得点数)

・ポイント計算:その年度で成立したタスクの中から、下の基準に応じた本数だけ合計したものを年間の得点とする。

その年度で成立したタスクが1本…1本計上

その年度で成立したタスクが4本未満…2本計上

その年度で成立したタスクが7本未満…3本計上

その年度で成立したタスクが7本以上…4本計上

例 大会1 DAY1 DAY2 DAY3 大会2 DAY1 DAY2 DAY3

500点 不成立 700点 600点 400点 不成立

の場合、成立したタスクは、4本なので3本の得点を計上。つまり、

500+700+600=1800点が年間ポイントとなる。

・年間チャンピオン表彰:1st・2nd・Open とも年間チャンピオンは最終戦で表彰する

・団体の得点:団体戦概要に載せる

・団体優勝:団体優勝サークルには最終戦で団体戦優勝旗を授与する

1.受付

受付は、大会スケジュールの時間に従って、大会本部にて行う。受付時間に遅れたものは、その日のフライトは棄権したものとみなす。

大会初日の受付で GPS にターンポイントデータをダウンロードする。

2.タスクコミッティー

各大会では、選手間での民主的な手法によって選手代表を3人選ぶ。選手は、選手代表に競技内容（タスク）の決定権を委託する。競技委員長は、選手代表と協議し、承認された競技しか行うことはできない。また選手代表は、大会全般の運営に関しても、提言、クレームを積極的に行うことができる。もちろん、大会ブリーフィング、競技ブリーフィングでは、全ての選手及び関係者が民主的な手法によって、発言することが認められる。

3.タスク

(1)Speed run to Goal

決められたコースを、最短時間で飛行したものを1位とすることを目的とする。スタートは選手が最後にスタートラインをクロスしたときとなる。

(2)Race to Goal

選手すべてのスタート時刻を同じにし、ゴールを競うことを目的とする。スタート方法は空中からの一斉スタートを用いる。

4.スタート方法

・スタートは、GPS 上で鉛直方向のシリンダーで作られるラインをクロスすることで確認される。地上での目視物は利用しない。

(a)＜Speed run to Goal＞

選手個々に空中からスタートラインをクロスする この場合指定されたスタートラインを最後にクロスした時間が計測される。

(a-1)スタートラインは次のポイントの大きなシリンダー（例えば、テイクオフは TPI から10km 地点にありスタートの計測は TPI の9km シリンダーに最後に入った時となる）で、ラインをクロスして入った時点から計測が始まる。

(a-2)スタートラインはディパーチャーポイントを中心とする半径100～400m シリンダーで、時間の計測はセクターを最後に出た時から始まる。

(b)＜Race to Goal＞

決められたスタートオープニングタイムに時間計測が始まり、パイロットはそれ以降にスタートラインをクロスしていかなければならない。スタートラインは大きなシリンダーを採用する。

5.ターンポイント、セクター、GPS を用いたゴールライン

(1)ターンポイント

ターンポイントは、主催者から提供される GPS 座標とする。ターンポイントリストは大会前に主催者のコンピューターから各選手にダウンロードされる（1.受け付け）。主催者がターンポイントを大会期間中に加算あるいは変更する場合は、タスクブリーフィングで告知される。

ターンポイントは基本的には地上にある、目標物を目安として決められる。

(2)セクター

ターンポイントのセクターは、主催者が指定したターンポイントの GPS 座標を中心としたシリンダーとする。シリンダーはスタートするときにも使用されるが、その時は境界線をスタートラインと見なす。シリンダーの大きさは、タスクを決定するときに決められる。

(基本)

- ・ ターンポイントは半径100～400m のシリンダー
- ・ スタートポイントは半径100～400m のシリンダー
- ・ 大きなシリンダーのスタート方法の場合はそのときによってサイズは決められる

(3)ゴールおよびランディングエリア

ゴールは仮想(GPS 上)のセクターで、最後のターンポイントからゴールポイントを結ぶ直線と直角に交わるゴールポイントを中心にした200～800m の直線(ゴールライン)を用いる。

もしくは、ゴールポイントを中心とした半径200m～400mの円(ゴールライン)を用いる。

6.リスタート

・リスタートは何度しても良いが、一度スタートポイントの次のターンポイントのセクターに入った後のリスタートは認めない。

7.リフライト

- ・リフライトは状況に応じて認める場合があり、競技開始前に競技委員長によって発表される。
- ・リフライトを行なう場合は、リフライトの前にテイクオフ役員にリフライトすることを告げる。
- ・リフライトの得点は最終フライトのものとする。
- ・リフライトを行う場合は必ずその前のフライトのトラックログを消さなければいけない。

8.デパーチャークローズ

・デパーチャークローズ時刻(最終スタート時刻) この時刻を過ぎてタスクをスタートした選手のスタート時刻はこの最終スタート時刻にスタートしたものとみなす。

9.ゴールの方法

- ・ゴールは、地上での目視物は利用しない。
- ・安全のため、分かりやすい目標物としてフィニッシュラインを設ける場合がある。ただし、フィニッシュラインを引く場合は、限りなく GPS 上のゴールラインの近く引かなければならない。

10. ゴールの手順

・選手は GPS 上のゴールラインをクロスしなければならない。タイム計測は GPS で記録されたデータを採用する。

11.フライトの成立、大会の成立、タスクの成立

(1)大会の成立

タスクが1本成立した時点で大会は成立する。

(2)タスクの成立は、以下の条件が満たされた場合とする。

- ・物理的に選手全員がテイクオフするだけの時間(参加人数×60 秒)ゲートが開いている。もしくは参加選手全員がテイクオフすること。
- ・そのタスクに参加の意思表示をした選手の 20%以上がミニマム距離を超えた場合。
- ・タスクの最低距離は 10km とする。距離の計算は FS 上の距離を基準とする。
- ・1人以上がタスク距離の 60%を超えた場合。この場合、トップの獲得点数は、タスク距離に対するトップの選手の飛行距離の割合分(小数点以下第一位を四捨五入し、整数で表す。)の得点となる。

12. ペナルティー

- ・雲中飛行を行った選手は、そのタスクのスコアを0とする。
- ・ランディング報告義務違反は、そのタスクのスコアを0とする。
- ・帰着申告義務違反は、そのタスクのスコアを0とする。
- ・旋回方向義務違反は、そのタスクのスコアを0とする。
- ・スタート時刻よりも前にスタートをした場合、そのタスクのスコアを 0 とする。

13.競技の中止

いったん競技が開始されても気象条件の急変等により、その競技を中止する場合がある。その場合フライト中の選手には公式無線により知らせる。フライト中の選手は速やかに安全にランディングすること。

14.競技時間

選手はゲートオープンタイム内にテイクオフし、定められた時間までに競技終了報告をしなければならない。

15.テイクオフ

テイクオフは、フリーテイクオフ制を用いる。(ゲートオープン時間内に選手の好きな時間にテイクオフする。)

16.タスクボードへの記載事項

- a) 一般 : 日付、大会名
- b) タスク内容 : タスクの種類、タスクディスタンス、ミニマムディスタンス、ゲートオープン時刻、ゲートクローズ時刻、一斉スタート時刻、デパーチャークローズ、ゴールクローズ時刻、ランディング報告時刻、帰着申告時刻
- c) 安全に関する情報: 帰着申告用電話番号、大会本部の電話番号、指定地域におけるサーマルの旋回方向

17.ランディング

ランディング場は地図に示したエリアをいう。指定のランディング場に着地した場合をインサイドランディング、それ以外をアウトサイドランディングという。アウトサイドした場合はエリアルールに従うこと。アウトサイドランディングは、そのフライトを失格とする。

18.ランディングクローズ

ランディングクローズ時間は、ブリーフィングの時に発表される。クローズ時間を過ぎてフライトしていた選手は、そのフライトを失格とする。

19.競技終了報告(ランディング報告)

当日受付した選手はフライト、ノーフライトのいかんに関わらず、大会本部に直接報告しなければならない。指定された時間までに連絡がない場合は、そのフライトを失格とする。やむをえない場合のみ電話での連絡もみとめる。(無線での連絡も受け付けるが、連絡した場合は必ず大会役員の了解をもらうこと。一方的に連絡して無線をきった場合はその連絡を無効とする。)

20.競技記録報告(タスクレポート)

当日受付した選手はフライト、ノーフライトのいかんに関わらず、大会本部へ直接選手自身がタスクレポートを提出しなければならない。選手はタスクレポートタイムまでに GPS データ、とタスクレポートを提出すること。

21.距離の測定

- a) GPS のトラックログを用いた距離測定は、0. 1km 単位で切り上げられる
- b) 距離の測定は通過確認されたパイロンまでとする。インサイドランディングの場合はベストポジションを採用できる。
- c) 距離の計算はFSの距離を基準とする。

22.時間の測定

タイムの測定は GPS の時間データを使用し秒単位とする。測定は以下のいずれかの方法により行う。

＜スタート時刻＞

- a. タスクで設定されたスタート時刻
- b. スタートパイロンセクターの範囲から離脱した時刻 (OUT)
- c. スタートパイロンセクターの範囲に進入した時刻 (IN)
- d. デパーチャークローズ時刻 (最終スタート時刻) この時刻を過ぎてタスクをスタートした選手のスタート時刻はこの最終スタート時刻にスタートしたもののみなす。
- e. リスタートは何回切ってもかまわないが、一度スタートポイントの次のターンポイントのセクターに入った後のリスタートは認めない。

＜ゴール時間＞

ゴールパイロンセクター内に入る直前にマークしたログポイントの時間とゴールセクター内に最初にマークしたログポイント時間から補完してゴールセクターに入った時間を算出した時間を採用する。

※タイムセクション

スタートパイロンからタスクの任意のパイロン(タイムゴールパイロン)までをタイムセクションとし、タスクをコンプリートした場合のみタイムセクションの時間が採用される。

23.タスクの証明

- ・飛行の証明は全て GPS のトラックログで判定する
- ・参加選手は少なくともひとつの GPS を装備すること(使用できる機種は主催者の指定しているもの)
- ・参加選手は、GPS を正しいパラメーターにセットすること
- ・参加選手は、帰着申告の際その日の飛行のトラックログを GPS からダウンロードすること
- ・原則として、時間は GPS 時刻をもとに秒単位で計測する。

タスク証明のデータソースは各選手が使用した一つの GPS のトラックログに限られる。二つ以上の GPS ログを繋げてひとつとすることはできない。

ファイルや、外部から GPS にダウンロードしたもの、その他のデータソースはタスク証明のデータソースとしては使用されない。

指定メーカーのデータロガーのデータもタスク証明のデータソースとして使用されるが、データロガーのデータソースの有効性を確認するために、そのデータロガーに接続していた GPS のトラックログを求めることがある。

- ・トラックログは少なくとも 2 分間、5 ポイント以上の連続したものをターンポイントのセクターの前後に残さなければならない。
- ・トラックログは少なくとも 2 分間、5 ポイント以上の連続したものをスタートセクターの前後に残さなければならない。
- ・トラックログは時間のデータが残っている有効なものでなければならない
- ・連続したトラックログは 20 秒以下の間隔の連続したものが望ましい

24.GPS の操作方法の習得義務

- ・パイロットはバックアップ用に複数の GPS やデータロガーを同時に使用しても良い
- ・一連のフライトは一つの GPS 又はデータロガーに記録されていなければならない
- ・一連のフライトが複数の GPS やデータロガーにまたがってはいけない
- ・パイロットは GPS とデータロガーを正しいパラメーターにセットしなければならない
- ・パイロットは前のタスクのデータを成績が確定するまで消去してはならない
- ・GPS が正しく作動しなかった場合はパイロットの責任である
- ・トラックログが取れなかった場合はパイロットの責任である
- ・提出したトラックログで正しく判定されなかった場合は、別のトラックログを提出することができる。

25.不正確な GPS トラックログのペナルティー

- ・スタートポイントのミスは 0 スコアとする
- ・連続したトラックログが要求されていてトラックログが連続していない場合は 0 スコアとする
- ・ターンポイントのミスはベストポジションを取り、距離得点が与えられる
- ・ランディング後に GPS のトラックログを記録し続けて移動するなどの行為によりベストポジションの検出が不可能となった場合、ランディング直前のターンポイントまでの距離がフライト距離となる

26.得点計算

- ・得点の計算式は GAP2008 を使用し、スコアリングおよびフライトログの判定は FS および GpsDump を使用する。
- ・GAP2008 のパラメーター(ノミナル距離、ノミナル時間、ノミナルゴール)は各エリアにより、競技開始前に決定しなければならない。ただし、以下の範囲で決定するものとする。
 - a)ノミナル距離 10km
 - b)ノミナル時間 0.25~0.5 時間
 - c)ノミナルゴール 20~40%

d)ミニマム距離 タスク距離の 30%

パラメーター設定に関して、大会毎でそのエリアコンディションにあうよう競技委員長・実行委員長が柔軟に決定してよいものと定める。

このパラメーターはタスクと同時に選手に発表すること。